

「高山市民の森 森林教室」 実施報告書

(森の散策と花炭、焼き芋作り)

令和2年11月14日

- 1 実施日時 令和2年11月8日(日)、10時から14時まで
- 2 参加講師名 越智(主担当)、高橋(副担当)、青野、大石、小久保、小嶋、佐野、杉山、中川、早川、矢下。 合計11名
- 3 参加者 7家族19人(うち、大人10人、子ども9人)、
単独2人(大人2人) 合計21人

4 概要

当日は晴れという予報より天気は良くなく一時青空が見られたが曇りがちで、視界・展望には恵まれなかった。今回は久しぶりに参加者が多く盛況であった(申し込み30人で、キャンセルが2家族9人)。道に迷ったりしてやや遅れた参加者がいたが、全員集合後に軽いストレッチをしてそれぞれのインストラクターと観察ウオークに出発した。

- 小学4年生と1年生の女の子二人がいる家族を案内した。高山市民の森には何回か来たことがあるということなので、行ったことがないところ、見たことがないものを知ってもらうように心がけた。駐車場周辺で初夏にコアジサイが咲くこと、東屋の周りにエビネがあること、遊びの森にはショウジョウバカマが春に咲くことなどを話し、スギとヒノキの見分け方も知ってもらった。高山の池では水芭蕉のこと、モリアオガエルのこと、池の伝説についてもお話した。頂上に向かう道では、ミツマタの枝分かれの特徴を見てもらったり、クロモジの香りをかいでもらった。林道に出たところで、カモシカがいたと教えてもらい、お母さんとお姉ちゃんは見に行ってきた。あいにく頂上は展望が効かなかったが、一休みして三角点横からホウノキを見、初めての山道を下った。(青野、記)
- 今回案内した家族は若い3人のご家族で、5才の娘さんが特に虫好きだった。更にお父さんも虫好きだった。そんなわけで、往きは山頂までずっと虫探しをしながら行った。陽にさえぎられたスギ・ヒノキの林の中で、虫のいそうのない急な登り道でも、キリギリスに似た虫とか、クモを見つけた。林道の所では、カメムシの仲間が結構飛んでおり、タモを左右に振って上手に虫取りしていた。また頂上付近の広場では、バッタ類、コオロギがたくさんいた。虫取りを楽しんだ後、山頂でカゴに入れた虫は全て外に放した。途中、樹木説明、匂い嗅ぎ等を楽しんでもらった。和紙作りにミツマタの木は知っていたようだが、枝が3つに分かれていることを知って驚いたようだった。サンショウの木ではトゲのつき方で、イヌがついたりつかなかったりすることも興味をもって聞いてくれた。またクロモジ、カナクギノキ、ダンコウバイ等の匂い嗅ぎも体験してもらった。(大石、記)
- 60代のご夫婦をガイドした。今回の参加に先立って、高山に「下見」にも来られた由だった。しかし山頂はご存じないそうで、今回は山頂を目指すことにした。雲がかかっていたが、登る間にそれも晴れることを期待していた。期待は外れて展望はよくなか

ったが、ガスの中からチラ見える安倍川沿いの街並みに、「あ〜、あの辺が〇〇だ」としばし見入っておられた。いつものように子連れの家族のガイドではないので、途中ではじっくりと樹木や森林の生態の話を聞いていただくことができた。樹木冊子の図も見ていただきながら、例えば「春には、こんな花が咲くんです」という解説に得心もしていただけたものと思う。(小久保、記)

- 私たちの班のメンバーは中年の女性二人だった。このお二人はお友達同士らしく、共通する体験が多いようでやりやすかった。管理道沿いにセンブリ、ホトトギスが見られるとの情報から、管理道をゆっくり散策して頂上を目指した。しかしボランティアの草刈り隊により綺麗に刈りとらえていて見られなかった。草刈り隊を頼む場合は、管理者が刈るべきところと残すべきところの指示が大切であると感じた。だが、管理道の途中でカモシカに出会えて参加者の方は大喜びだった。間伐の意義や、森の役割などの説明に納得していただいた。コバノガマズミの実を味見していただいたり、クサギの葉の臭いや実の青色が草木染で使われたりする話をしながら五感を使った体験をしてもらった。ミツマタの樹皮をむいて繊維の引っ張り強さも体験してもらい、和紙の原料となる理由についても分かって頂いた。

帰り道は、森の中の小径を下ったがなんと、ツルリンドウ、キッコウハグマ、センブリ、ミヤマシキミなどの花や実に出会えた。春の桜や、初夏のコアジサイ等々他の季節にも来ていただきたいと”市民の森”のPRも忘れずにしておいた。(小嶋、記)

- 女の子2人の4人家族を案内した。高山市民の森へは初めてというので、森の紹介方々山頂を目指した。まずはミズメの香りを湿布の香りと気付いてもらった。次はキハダ。樹皮の黄色の部分を見てもらい、百草丸など胃薬として使われていることを説明した。メグスリノキがカエデの仲間だということ、目薬になることを説明し、ガマズミでは味を楽しんでもらった。トチノキの冬芽のべたべた感を体験してもらったつもりだったが、やや乾燥気味であった。クロモジの香りは甘くてよい香りだ、とのこと。斜面の急なところでは、シロヨメナ、キッコウハグマ、テイショウソウなど、キク科の植物を楽しんでもらいながらゆっくり登った。途中、カモシカに出会うことができ、野生動物を見ることは初めてということで喜んでもらった。サンショウとイヌザンショウを比較し、香りなど違いを実感してもらった。イタヤカエデに熟果が多くついていたので、子ども達は種を飛ばして大喜びだった。帰りには、ハウノキやヤマコウバシの枯葉を見てもらい、ミヤマシキミ、アジサイ類など有毒植物の説明もし、ジョークの好きなお姉ちゃんに楽しませてもらいながら森の恵みへ戻った。昆虫にも興味を示す子供たちで、よく見つけるものだと感心しながら歩いた。子ども達にもご両親にも大変満足していただけたようだった。(杉山、記)

- 午前中の森の散策では親子(大人1、子ども1)の案内をした。子供さんは男の子(園児)で、虫かごと虫取り用たも網をもって来ていた。最初はキジョランやヒヨドリバナの話をおとなしく聞いていたが、その子はそのうち虫取りに熱中しだし、私を含め3人で虫を追いかける展開になった。しかしヒノキの実をサッカーボールの模様があると説明したら、結構反応を示してくれた。

午後の花炭・焼き芋体験では、幸いなことに花炭がよく焼きあがった。来月のクリスマスの時皆さんに分けてあげようと、いっぱい作ったものを籠に入れたりラップに包んだりして残らず持ち帰ってくれた。焼き芋もおいしそうに食べており、帰りには楽しかったと言ってくれた。(早川、記)

12時頃に各グループが「森の恵み」に到着、昼食をとった後12時45分から午後の部（花炭作りと焼き芋）を開始した。花炭の材料には、テーダ松などの松ぼっくり、栗のいが、ドングリ類、トチノ実、マテバシイの殻斗付き雌花序、ホオズキなどを使用。加熱するにしたがい、缶の穴、蓋の隙間からはじめは白い煙、次第に青っぽい煙が出るが、夫々水蒸気、可燃性ガスだと聴いて感心する参加者もいた。花炭はうまく仕上がりに、それぞれの参加者は喜んで持ち帰り用容器に満杯にして帰った。焼き芋は、細めの芋にしては焼き上がりに時間がかかったという感じであった。アンケートに記載されたように、参加者皆満足して帰られたようだった。(高橋、記)

NPO 森林インストラクターしずおか
担当 越智、高橋



スタート前



観察と山登り



頂上に到着



花炭作り開始



ほぼ焼けた



花炭出来上がり



残り火で焼き芋作り



焼き芋おいしいね